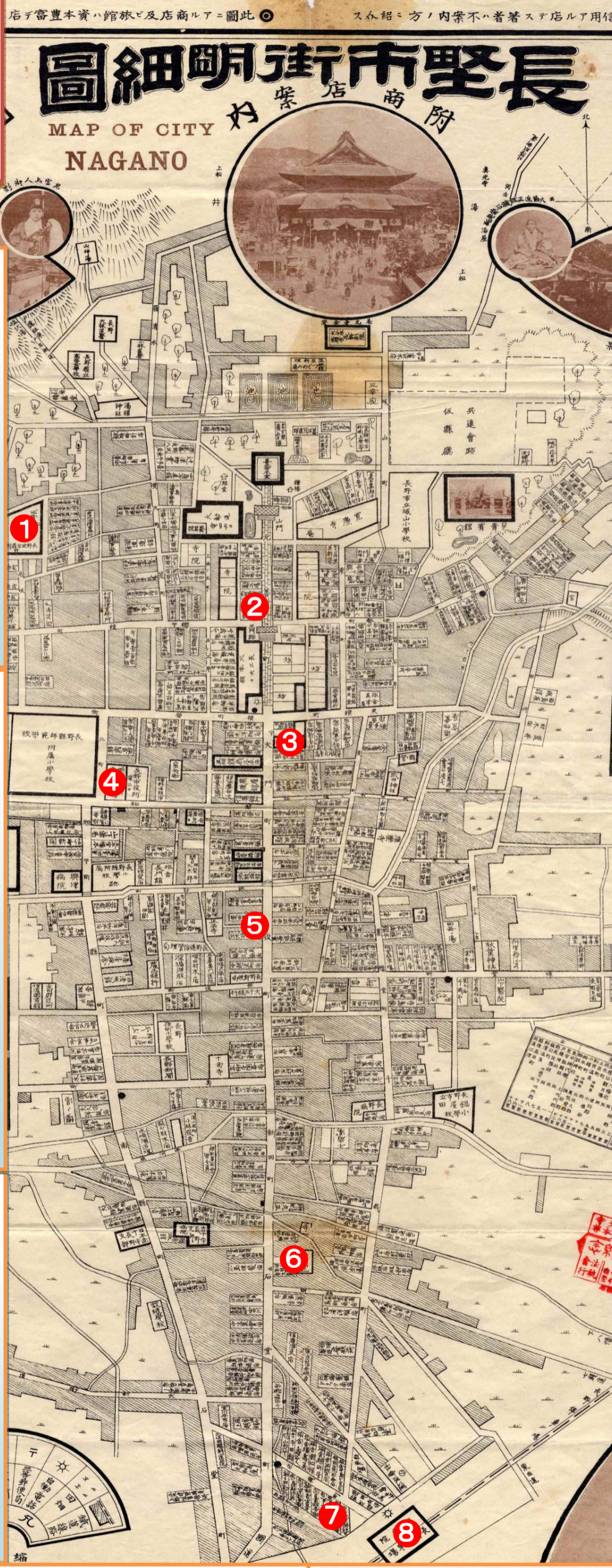


長野市街明細図

明治45年(1912)、善光寺ご開帳の年に発行された「長野市街明細図」です。明治末の長野市街地の商店や旅館が紹介され、当時の様子を知るうえで貴重な資料となっています。今号では、当館所蔵写真と併せて当時の長野市の建物や町並みのいくつかを紹介します。



1 長野地方裁判所 (花咲町)

明治9年(1876)10月、司法事務は行政から分離して、長野区裁判所となり大勲進内に仮庁舎を置いた。11年8月立町へ移転し、15年長野始審裁判所と改称後は長野が本庁となった。19年4月、花咲町に庁舎を新築し、23年11月1日に長野地方裁判所と改称した。



2 露座の仁王像 (善光寺境内)

明治45年4月1日からの善光寺ご開帳に登場した露座の木造黒塗仁王像。24年6月の火災で仁王像は仁王門と共に焼失し、仁王門の完成は大正7年(1918)3月、仁王像の開眼式は翌8年9月のことであった。露座の仁王像は、飯山の仏師清水和助が請負い、すでにあった像の上に和紙を貼り、黒色の漆を塗ったものである。その後信更町安庭の真龍寺に引取られたが、現在は清水和助の縁により飯山駅前安置されている。



3 藤屋ホテル (大門町)

藤屋は、旧北国往還善光寺宿の本陣であった。弘化4年(1847)の善光寺地震、明治24年(1891)6月の長野町大火で傷んだ建物は、25年に建て替えられた。三層楼の建物は対旭館と名づけられた。



4 長野市役所 (若松町)

明治30年(1897)4月1日、県下初の市制を施行して長野市が誕生した。市会は若松町の空き地に洋館の新庁舎建設を決定し、31年1月15日起工、11月13日に新庁舎落成式を挙行了。昭和40年(1965)緑町移転までの66年間、市行政の中心として機能したのである。



5 商店街 (後町周辺)

明治末年、旧北国往還に重なる長野駅～善光寺は長野市の交通の中心で、通りの両側には多くの商店が建ち並び、活発な商いが行われていた。後町界隈の商店の屋根の上には「カプトビール」の看板も掲げられている。



6 刈萱堂 (北石堂町)

刈萱山寂照院西光寺。九州の加藤左衛門尉重氏が出家し、高野山へ籠もって修業し寂照坊等阿といった。子の石堂丸が尋ねてきたが、親子の名乗りをせず、その後信州へ来てこの地に草庵を開いた。父の死後、石堂丸はこの地を尋ねここで入寂した。境内には親子の刈萱・石堂丸像がある。



7 五明館扇屋駅前支店

明治21年(1888)5月、直江津・長野間の鉄道の営業が開始されると、人家もまばらだった駅周辺に、旅館や茶屋の開店が相次いだ。五明館扇屋も駅前に3階建ての支店をつくり営業した。

8 長野停車場 (2代目)

明治26年(1893)4月、碓氷峠にアプト式レールが敷設され、上野・直江津間が全線開通した。敷設工事は18年に直江津から始まり、21年5月、直江津・長野間の営業が開始された。初代駅舎は小規模で、業務拡大に対応できず、37年に2階建ての2代目駅舎が完成した。

